平成７年（1995年）阪神・淡路大震災

神戸市灘区鶴甲地区の被害と復興

神戸市灘区の鶴甲地区では、六甲山の南斜面標高250～400m付近で震災直後に崩壊が発生。その後の余震や降雨によって崩壊が拡大し、平成7年7月には降雨によって新たな崩壊も発生しました。

断層に囲まれたこの地区はもともと崩れやすい地域で、明治中ごろに作成された地形図にも崩壊地として記載されています。

鶴甲地区の復旧工事

住宅地に極めて近いこの地域では、震災直後の平成7年3月より本格的な震災復旧工事が開始されました。工事の現場は45度の急傾斜であり、工事によって、土砂が住宅地に流出しないことに加え、遠隔操作も可能なロッククライミングマシーンを採用し、作業員の安全確保にも充分配慮しながら工事が進められました。また景観への配慮から、極力コンクリートの使用を抑えて、緑化による斜面の強化を図りました。

ロッククライミングマシーンによる急斜面の石や泥の除去作業

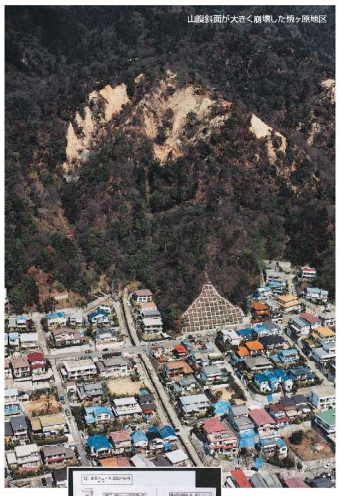
崩壊地最上部にコンクリート格子枠等で覆った後に緑化工事

崩壊地の中腹部にもマット工によって植物の種子を含む土を吹付け

現在の鶴甲地区（緑が復元）

神戸市東灘区焼ヶ原地区の被害と復興

神戸市東灘区住吉山手9丁目（焼ヶ原地区）では、兵庫県南部地震によって住宅地背後の山腹斜面が大きく崩壊しました。幸いにも崩れた土砂が直接住宅地に流れ込むことはありませんでしたが、余震・降雨等による二次災害の危険にさらされ、地震から4日後の平成7年1月21日には、同地区に避難勧告が発令されました。その後、平成7年2月以降より国土交通省などによる緊急の復旧工事が着手され、応急工事が約1年で完了、平成10年にすべての工事が完了しました。



「裏山防災連絡会」の発行していた「防災ニュース」

焼ヶ原地区の復旧工事

焼ヶ原地区では、土砂災害に対する不安を持った地区住民間で話し合いが行われた結果、復旧工事を早く円滑に進めてほしいとの観点から、工事を担当する行政・業者側と住民側をつなぐ組織が必要だとされました。その後の住民投票で平成7年2月に「裏山防災連絡会」が設立され、行政と住民が一緒になって、復旧に向けて取り組みました。

谷の出口に砂防えん堤を建設

崩壊地を法枠などで固定